

地域で育て、地域で活かす 未来を開拓する人材育成を

「優秀な航空エンジニアを輩出、一大航空宇宙産業拠点の地元へ人材育成で貢献したい」。中部大学（春日井市松本町）の山下興亜学長（七十六歳）は、二年後、工学部に宇宙航空理工学科の新設を目指す意欲をこう語る。就任一二年目の学長は、教育の質的転換など総合大学化の集大成を視野に入れている。

——全国に先駆けた、宇宙航空理工学科新設へ向けた思いを。

山下 当地域は世界に誇る航空宇宙産業の中心地で、名古屋はシアトル（米）、トゥールーズ（仏）に続く世界三大航空基盤都市になろうとしています。この産業を支える人材を本学から供給したいと考えました。また、部品数は自動車が約二〇万点なのに対して航空機は約三〇〇万点。これを組み立

て最適なテーマなのです。大学は社会的装置で、現場知をどう持つかが重要。知的発想力による地域貢献は確実に地方創生につながるはずです。

——開設時期、定員の見通しは。

山下 二〇一八年四月開設予定で、来年六月にも認可をいただきたいと頑張っています。新学科が実現すれば、一学年八〇人でスタートします。現在約一万一〇〇〇人の在学生がさらに増え、大学が活性化すれば地域も元気になるはずですよね。

——同時期に電気システム工学科と電子情報工学科を統合される計画とか。

山下 そうです。「電気電子シ

ステム工学科」に統合強化する予定です。電気工学がけん引して電気の時代をつくり、その後、産業の高度化により電子工学のニーズが高まり、半導体や情報機器などが新たな電子情報産業の核を占めるようになり、さらに人工頭脳へと時代は変わりつつあります。

航空機の約八〇％は電気電子システムによる制御系で構成されていると言われていきます。これまでの教育研究分野を縦組織とすれば、これからは課題対応のための横系の学問連携が求められます。学科の統合強化は時代の変化への対応ですね。

——総合大学化は、ほぼ完成しましたか。今後は。